

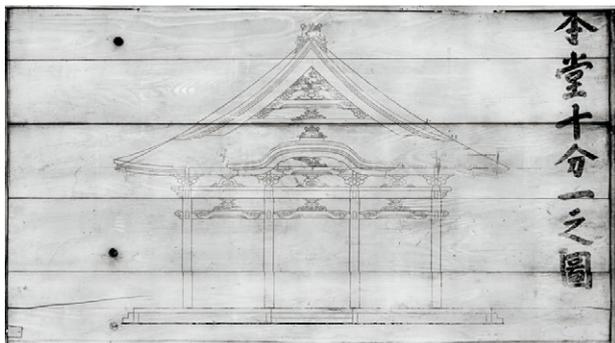
岡寺本堂建地割図の調査

奈良県高市郡明日香村岡に所在する岡寺(龍蓋寺)は、7世紀前半に創立したと伝える古刹です。文化2年(1805)上棟の本堂は、桁行5間、梁間3間、入母屋造、妻入の建物で、本尊は如意輪観音坐像(重要文化財)です。本尊の東西には脇侍像を安置する脇内陣と呼ばれる中二階の小部屋があります。2017年、この脇侍像を修理のため運び出したところ、東西両脇内陣の背面壁板にそれぞれ違う建物の^{たてちわり}建地割図(立面図と断面図をあわせて描いた図面)が描かれていることがわかり、奈文研が建築的調査をおこないました。

脇内陣は奥行が狭く、また一部の墨書が不鮮明であったため、まず中判デジタルカメラを用いて赤外線分割撮影をおこない、鮮明化した画像を用いて三次元解析をした後、解析成果からオルソ(正射投影)画像を出力しました。

作成した画像を調査した結果、東脇内陣建地割図は、現在の本堂とほぼ同じ建物が描かれており、本堂再建時に描かれた設計図であることがわかりました。西脇内陣建地割図は、該当する建物は岡寺境内にはありませんが、現本堂再建に関わった大工である、細田嘉七郎・豊田彦五郎・的場惣八の名が記されていました。また、岡寺の本寺である長谷寺本堂(慶安3年=1650建立)と建築形式が似ていることから、長谷寺本堂などを参考に描かれた岡寺本堂の設計図のひとつと考えられます。

2枚の板図は脇内陣という重要な場所におさめられており、岡寺としても大切に扱われていたことがわかります。保存状態も良く、板図としても年代があきらかな新資料です。本堂の建築経緯を示す資料として大変貴重であり、棟札とともに永く保存されることが期待されます。(都城発掘調査部 大林 潤)



岡寺本堂東脇内陣建地割図(赤外線オルソ画像)